

1~3年

社会

アメリカの農業の特色や日米関係を まとめよう

年 組 番 名前

☆下の輸入小麦に関する記事を読んで考えよう。

- 1) トウモロコシは米国では「適地適作」で栽培される。栽培地域は北緯何度付近か。食品工業がさかんな主な都市名を書こう。
北緯()度付近
都市名()

- 2) 米国の農業が「企業的で大規模」といわれる理由を調べてまとめよう。

輸入小麦の政府売り渡し価格の推移 (1トン当たり、主要5銘柄平均)

農林水産省は22日、製粉会社などへの輸入小麦の政府売り渡し価格を10月から主要5銘柄の平均で3%引き上げ、1ト当たり5万1300円にすると発表した。米国の干ばつにより、深刻な不作が懸念されるトウモロコシ

政府価格、10月から国際相場上昇で

農林水産省は22日、製粉会社などへの輸入小麦の政府売り渡し価格を10月から主要5銘柄の平均で3%引き上げ、1ト当たり5万1300円にすると発表した。米国の干ばつにより、深刻な不作が懸念されるトウモロコシ

国際相場も連動して上昇したことを反映した。パンの原料にする3銘柄はほぼ現行価格を維持する。小麦見直しを受け、小麦粉の小売価格は今後上昇する可能性がある。ただ、引き上げ幅は比較的小さく、農水省は「影響は限定的」とみている。

小麦の国際相場は7月から上昇。小麦の生産自体は安定し、在庫も適正水準を確保できる見通しだが、トウモロコシや大豆相場の高騰を受けて投機

どんな菓子に使う2銘柄は相場の上昇幅が大きいため平均で8%の値上げとなる。パンの原料にする3銘柄はほぼ現行価格を維持する。

小麦見直しを受け、小麦粉の小売価格は今後上昇する可能性がある。ただ、引き上げ幅は比較的小さく、農水省は「影響は限定的」とみている。

小麦の国際相場は7月から上昇。小麦の生産自体は安定し、在庫も適正水準を確保できる見通しだが、トウモロコシや大豆相場の高騰を受けて投機

平成24年(2012年)8月23日(木曜日)
朝刊 7ページ

国内で消費される小麦の約9割は輸入だ。今後の高止まりするようなら、政府売り渡し価格が一段と上昇する懸念もありそうだ。

国内で消費される小麦の約9割は輸入だ。主にも米国、カナダ、オーストラリアから政府が一元的に買入れ、製粉会社やしょうゆ会社などに販売している。

- 3) 日本国内の小麦の売り渡し価格は10月の引き上げでどうなるのか。主要5銘柄について書こう。

- 4) 国内で消費される小麦の約9割は輸入だ。輸入先や販売先を書こう。
輸入先()
販売先()

コピーを生徒に渡す際、下記の指導アドバイスの部分は消してからコピーしてください。

*指導する先生や保護者の皆様へ(磐田市立神明中学校・横井純夫)

今回の指導要領改訂で、世界の諸地域は一年生で主に学習することになりました。二年生で世界と日本の結びつきを学び、三年生でも公民分野でグローバル化などの学習をします。4月と10月に政府売り渡し価格の発表があります。新聞記事から教科書の進度に合った記事を見つけて学習を深めましょう。